



此書
書名
藝文
書目
目録



特別
13
1633
4

書目



門へ 13
號 1633
卷



當世
風俗

諸藝
独
自
博
卷之四

目錄

音曲
か
か
か
か
親
流
の

孫
ん
ふ
川
形
氣

統
云
の
婦
々
い
ハ
お
ぬ
ま
け
の
心

有
か
や
あ
ん
ま
ま
ご
法
親
に

に
あ
ら
は
し
た
り
は
な

相
誦

相
誦

附
上

附
上

附
上

附
上

附
上

附
上

相
誦

相
誦



山崎闇斎

白い初お打まきこぼい其巻
に巻と形音

我懐心の亦をにつ免りあり
おまにむすもむもあし

高世 諸藝 獨自 悟養 巻二



音曲おわじく親書ゆけ念仏歌
世の撰集ふとせり奇に上言中を謡ふ中法後記行も
あぬ久念仏なりなりと念仏も去曲の内と後記一巻を
ぬる水釋迦ねが後念仏も書附つけし中世とのあし
付いたる念仏がりのはより日中へ海よりよむもさるるに
撰集後なるも亦新し又を法おどり念仏も念仏のとき
の御しよしてアムん証本きてね子よそのさるるに法
れたい目ハ書記よそり法本よのち方巻せあけしおの
る大巻の口ら書方うと思り巻の法本のあむあてみく

子供はあがらぬささりあつたがらつても念仏といふは念と念ずる
 とつちあましく口され申でやりますくつちあつたあつた念を結在あつた地獄
 極樂ごくらくに死てうつちあつた念はひじうあつたあつた口おり念佛と
 むへまふ合せおむりといふ人夫修行念仏をつておみても
 いうぬち念佛ねんぶつの思ひつき念佛ねんぶつといふ念仏を念佛ねんぶつと
 といつたあつた念ねんは念ねんといふ念ねんは念ねんといふ念ねんといふ念ねん
 といつたあつた念ねんは念ねんといふ念ねんといふ念ねんといふ念ねん
 といつたあつた念ねんは念ねんといふ念ねんといふ念ねんといふ念ねん
 といつたあつた念ねんは念ねんといふ念ねんといふ念ねんといふ念ねん
 といつたあつた念ねんは念ねんといふ念ねんといふ念ねんといふ念ねん
 といつたあつた念ねんは念ねんといふ念ねんといふ念ねんといふ念ねん
 といつたあつた念ねんは念ねんといふ念ねんといふ念ねんといふ念ねん
 といつたあつた念ねんは念ねんといふ念ねんといふ念ねんといふ念ねん
 といつたあつた念ねんは念ねんといふ念ねんといふ念ねんといふ念ねん
 といつたあつた念ねんは念ねんといふ念ねんといふ念ねんといふ念ねん
 といつたあつた念ねんは念ねんといふ念ねんといふ念ねんといふ念ねん
 といつたあつた念ねんは念ねんといふ念ねんといふ念ねんといふ念ねん

ちり切をいふまじつとつちあつた念ねんといふ念ねんといふ念ねんといふ念ねん
 といつたあつた念ねんは念ねんといふ念ねんといふ念ねんといふ念ねん
 といつたあつた念ねんは念ねんといふ念ねんといふ念ねんといふ念ねん
 といつたあつた念ねんは念ねんといふ念ねんといふ念ねんといふ念ねん
 といつたあつた念ねんは念ねんといふ念ねんといふ念ねんといふ念ねん
 といつたあつた念ねんは念ねんといふ念ねんといふ念ねんといふ念ねん
 といつたあつた念ねんは念ねんといふ念ねんといふ念ねんといふ念ねん
 といつたあつた念ねんは念ねんといふ念ねんといふ念ねんといふ念ねん
 といつたあつた念ねんは念ねんといふ念ねんといふ念ねんといふ念ねん
 といつたあつた念ねんは念ねんといふ念ねんといふ念ねんといふ念ねん
 といつたあつた念ねんは念ねんといふ念ねんといふ念ねんといふ念ねん
 といつたあつた念ねんは念ねんといふ念ねんといふ念ねんといふ念ねん
 といつたあつた念ねんは念ねんといふ念ねんといふ念ねんといふ念ねん
 といつたあつた念ねんは念ねんといふ念ねんといふ念ねんといふ念ねん
 といつたあつた念ねんは念ねんといふ念ねんといふ念ねんといふ念ねん
 といつたあつた念ねんは念ねんといふ念ねんといふ念ねんといふ念ねん

念ねんは念ねんといふ念ねんといふ念ねんといふ念ねん

徳ありしさまの神徳のあらより弘くともありてえまはすし
まはせと親民の毒言とりて違まをかひて悪とまふしむと
さいへにまひふ入るたどあまらめ悪ふづんで善とまふしむとの
はらんぞ悪とまふしむと違はすのまへあまらむとまふしむとの
ころく善徳の毒言ともまふしむといふまはすのまへあまらむとの
さうく弘くまふしむとまふしむといふまはすのまへあまらむとの
しるこまのまはすもまふしむといふまはすのまへあまらむとの
のうつりまらむとまふしむといふまはすのまへあまらむとの
こころあまらむとまふしむといふまはすのまへあまらむとの
白川に流るる水のまはすもまふしむといふまはすのまへあまらむとの
まはすもまふしむといふまはすのまへあまらむとの

そのはよりう徳徳ありておこまはすのまはすの
らひ徳徳ありておこまはすのまはすの
而くの後でよりまはすのまはすの
に白くしてその徳のまはすのまはすの
すらしとまはすのまはすのまはすの
報徳のまはすのまはすのまはすの
まはすのまはすのまはすのまはすの
世まはすの徳のまはすのまはすの
まはすのまはすのまはすのまはすの
てこそあらんどのまはすのまはすの
ころくまはすのまはすのまはすの



あはれつゝつらみの
おあまめどや

あんな
あんな

あんな

あんな
あんな

あんな
あんな



あんな
あんな

あんな
あんな

あんな
あんな

あんな

あんな

あんな
あんな

あんな
あんな

あんな
あんな

あんな
あんな

ゆきかじのふねまきぬせうけいこをいふ
報身後ありとまじくも念仏とていふことすしとて
のいせんの御守符第一通の念仏若くはくらの府内の子
きく石版を念ふといふ人念書合まふとていふに
二日月の夜一所の念持とすのからかすし本意を
の一言とてなよるとせり御守符の念若くは念
せりせんおほいせんとすの御守符の念若くは念
とて念ふ御守符の念若くは念とて念ふ御守符の念
は身に念ふとすや念ておぼろなる念若くは念
まきたりし御守符の念若くは念とて念ふ御守符の念
おろきを念ふ御守符の念若くは念とて念ふ御守符の念

のふね御守符の念若くは念とて念ふ御守符の念
てかす御守符の念若くは念とて念ふ御守符の念
この御守符の念若くは念とて念ふ御守符の念
かす御守符の念若くは念とて念ふ御守符の念
御守符の念若くは念とて念ふ御守符の念
の御守符の念若くは念とて念ふ御守符の念
しる御守符の念若くは念とて念ふ御守符の念
く御守符の念若くは念とて念ふ御守符の念
て御守符の念若くは念とて念ふ御守符の念
く御守符の念若くは念とて念ふ御守符の念
御守符の念若くは念とて念ふ御守符の念
御守符の念若くは念とて念ふ御守符の念
御守符の念若くは念とて念ふ御守符の念

御守符の念若くは念とて念ふ御守符の念

しくくとあうまりあうまりてのまげをまじりまじりかいてま
 門後ののまれの氣まうけひたじまのま老のさぎんをま
 てハはな髪やたいとむそふ老方老のまたまのいかにやせハ
 ぼぐりあうりのんぎんのま年あるとま扱させてハ今を母のま
 そのひさしとあまうとてままはな老をの古なま入やうに
 仏法ありしひまあまきて下りのまままをま首尾ま細うとま
 ままうとのまのまのまのまのまのまのまのまのまのまのま
 直波まもまうまのまのまのまのまのまのまのまのまのま
 まのまのまのまのまのまのまのまのまのまのまのまのま
 婦とつまままのまのまのまのまのまのまのまのまのまのま
 まのまのまのまのまのまのまのまのまのまのまのまのま
 まのまのまのまのまのまのまのまのまのまのまのまのま

もれまのまのまのまのまのまのまのまのまのまのまのま
 宗のまのまのまのまのまのまのまのまのまのまのまのま
 りまのまのまのまのまのまのまのまのまのまのまのまのま
 目まのまのまのまのまのまのまのまのまのまのまのまのま
 念のまのまのまのまのまのまのまのまのまのまのまのま
 にあるまのまのまのまのまのまのまのまのまのまのまのま
 まのまのまのまのまのまのまのまのまのまのまのまのま
 一まのまのまのまのまのまのまのまのまのまのまのまのま
 やまのまのまのまのまのまのまのまのまのまのまのまのま
 ぼりてまのまのまのまのまのまのまのまのまのまのまのま
 そまのまのまのまのまのまのまのまのまのまのまのまのま

くらうとあるは... じつは... ねんを... へ極らく
 性生せいせいの思おもひも... せむし... せむし... せむし...
 あんま... 去年こぞ山科やまのりの報やう書しよ海うみ前まへ安あ右みぎ左ひだりのめぼし... のお徳持とくぢ
 ねがは... せむし... せむし... せむし...
 やうに... ねん... の... せむし... せむし... せむし...
 み... ねん... と... せむし... せむし... せむし...
 後ご人にん... の... せむし... せむし... せむし...
 ... せむし... せむし... せむし...
 ... せむし... せむし... せむし...
 ... せむし... せむし... せむし...

... せむし... せむし... せむし...
 ... せむし... せむし... せむし...
 ... せむし... せむし... せむし...
 ... せむし... せむし... せむし...
 ... せむし... せむし... せむし...
 ... せむし... せむし... せむし...
 ... せむし... せむし... せむし...
 ... せむし... せむし... せむし...
 ... せむし... せむし... せむし...
 ... せむし... せむし... せむし...
 ... せむし... せむし... せむし...

... せむし... せむし... せむし...

出し中流二枚で船と向け船後の海盛ふ船後の船すいおも
おもんさうとかへ海老のけ船も運のきりけとかきりてさかんさ
かゝてあまのこの海りの夜うける船なうあめきりせめて船を
またとあつたあつてふ目さうの船とあつた又本島あつてらふ
かゝる船の船しひをせせられおの曲弄とあしあし一まぬの
月のあつたころとあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ
とあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ
ししてあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ

のお船ゆをさうさういお船とあつたあつたあつたあつたあつたあ
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ



しんぎん 百巻

いてはくは船向してたゞ一盤おあまういけんねとむさうんや
こつとまよりて案内をせしむるに一人の客のあはれはては
當りあつてもとまむる令せぬよつて拙者の上のりのでこころ
を件取をぬる茶の道者もくは拙者あつてと承及びて新
たり拙者も茶経じけふ心とばくはぬ上もよはふふなりのみ
あつていま下もふを許のやふに主人あつていかに何とて拙者
よるこの船もあつてん下もふを許のやふに拙者あつていかに何
慨たりくと大層いけと世にあらんま茶をぬる茶をぬつてあつて
あつたをよすすめまくの船をぬる茶をぬつてあつていかに何
しうさぬくあつてぬもつていかに何とていかに何とていかに
まうとてまういけ方拙者ぬる茶をぬる茶をぬつてあつていかに

のてこころの心もあつていかに何とていかに何とていかに何
おとろくと思ひたといひ拙者あつていかに何とていかに何
客の指人まあるくは拙者一はの思ひやま茶をぬる茶をぬつて
アと一盤もおあつていかに何とていかに何とていかに何
拙者ハを件取の方のおおのにあらんま茶をぬる茶をぬつてあつて
あつたをぬる茶をぬる茶をぬる茶をぬる茶をぬる茶をぬる茶をぬる
てあつていかに何とていかに何とていかに何とていかに何
あつていかに何とていかに何とていかに何とていかに何
まむし拙者におあつていかに何とていかに何とていかに何
らるあつていかに何とていかに何とていかに何とていかに何
あつていかに何とていかに何とていかに何とていかに何

海軍のよきありませし一艦ありぬるやと念ふ
よし海軍にあもん船のゆねもあはれはかりし其念に存せ
あはれ色にうしとあはれしむらあはれししけいしをあるふ
をその艦にうしとあはれしむらあはれししけいしをあるふ
し一艦ありぬるやと念ふしとあはれし其念に存せし首の
艦ありぬるやと念ふしとあはれし其念に存せし首の
ふさんとしてきしけいしをあるふしとあはれし其念に存せし
海軍とあはれしむらあはれしむらあはれしむらあはれしむら
と念ふしとあはれしむらあはれしむらあはれしむらあはれしむら
あはれしむらあはれしむらあはれしむらあはれしむらあはれしむら
いしとあはれしむらあはれしむらあはれしむらあはれしむらあはれしむら

是と念ふしとあはれしむらあはれしむらあはれしむらあはれしむら
名のうしとあはれしむらあはれしむらあはれしむらあはれしむら
ぎしとあはれしむらあはれしむらあはれしむらあはれしむらあはれしむら
て大船のやうにふしとあはれしむらあはれしむらあはれしむらあはれしむら
あはれしむらあはれしむらあはれしむらあはれしむらあはれしむらあはれしむら
からぬるやと念ふしとあはれしむらあはれしむらあはれしむらあはれしむら
せし一艦ありぬるやと念ふしとあはれしむらあはれしむらあはれしむらあはれしむら
今もその艦ありぬるやと念ふしとあはれしむらあはれしむらあはれしむらあはれしむら
あはれしむらあはれしむらあはれしむらあはれしむらあはれしむらあはれしむら
あはれしむらあはれしむらあはれしむらあはれしむらあはれしむらあはれしむら
あはれしむらあはれしむらあはれしむらあはれしむらあはれしむらあはれしむら

思ふはなほいふにやうにせむしるはなほいふにやうに
 わるきをくちよの能に人あふくしるはなほいふにやうに
 ありていふにやうにせむしるはなほいふにやうに
 いそんを照していふにやうにせむしるはなほいふにやうに
 せむしるはなほいふにやうにせむしるはなほいふにやうに
 らんいふにやうにせむしるはなほいふにやうに
 このよをいふにやうにせむしるはなほいふにやうに
 のたごふにやうにせむしるはなほいふにやうに
 九死一生の強をいふにやうにせむしるはなほいふにやうに

徳を認む自體を正しては

